

特38

163

内科摘要抄語解

江馬元齡編述

一

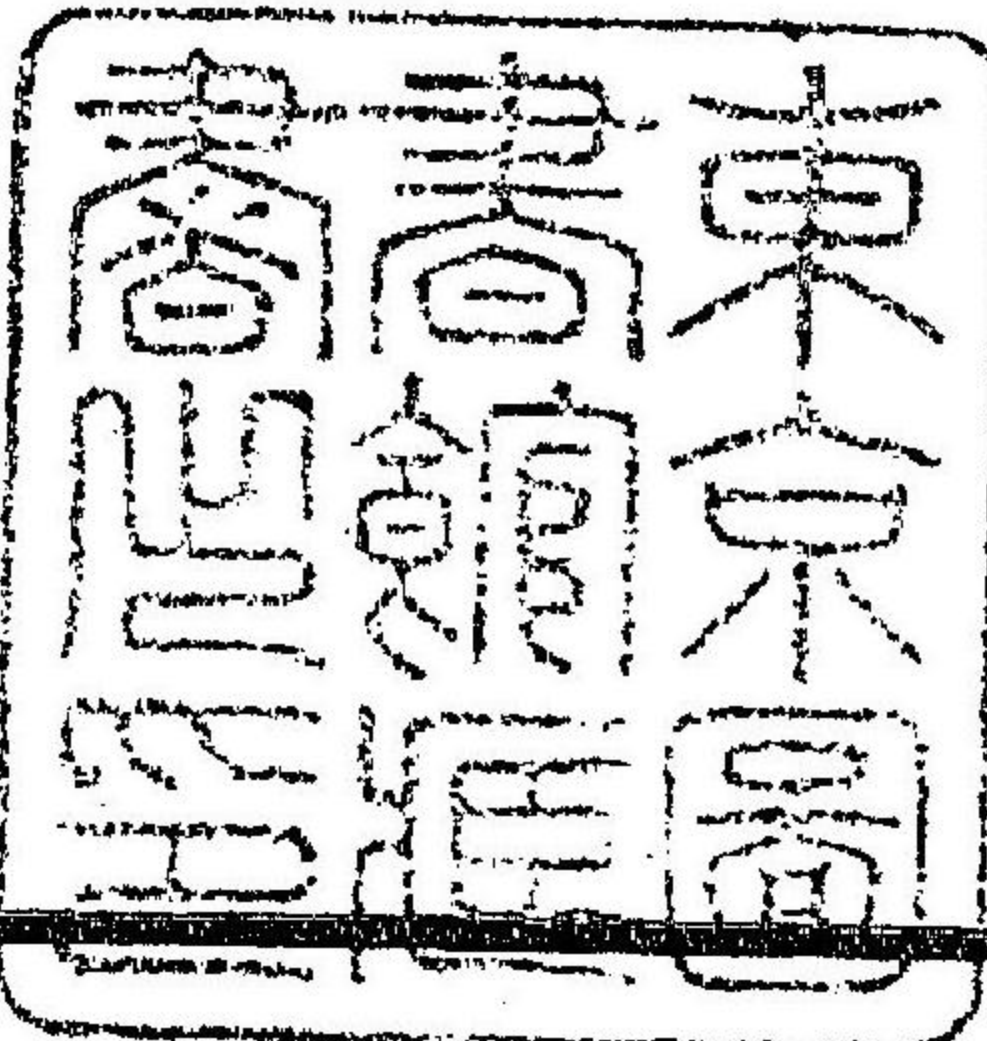


素田衛平校正  
江馬元齡編述

內科摘要抄語解

大垣 岡安慶介刊行





特38  
163

刻已毀  
人  
雄寧



古今圖書集成  
卷一  
○第一  
胡安藏版







内科摘要抄語解卷之一

緒言

一明治十一年孟秋從前開業醫輩因循進步ノ路  
ヲ開カサルヲ以テ縣ノ患トシ各郡ニ於テ醫  
學講習所ヲ設ケ其々教長及ヒ會頭ヲ撰擢シ  
現今衛生療病ノ方法ヲ誘導セシムヘシトノ命  
アツテ諸郡ノ醫徒速ニ其命ヲ受應スト雖ヒ  
殆ント其長タル人才ノ乏キニ困惑シ老廢淺  
劣ノ鄙生ニ其依頼ヲ受ケ已ムヲ得ヌメ東西  
ニ巡廻シ先ツ試ニ華氏内科書ヲ授讀スルモ



往々僻邑庸醫ノ解了シ得サルノ語及ヒ藥名  
 アルカ故ニ講餘假リニ抄語解ヲ筆録セシメ  
 備忘ノタメ之ヲ案側ニ備置セシメン丁ヲ要  
 ス適書肆岡安氏來テ云各醫ニ謄寫ノ勞ヲ與  
 ヘンヨリハ寧口之ヲ梓ニ上メ廣ク各地ノ醫  
 生ニ示サハ大ナル裨補アラン強テ之ヲ委託  
 セン丁ヲ請フ此書ハ實ニ講舌ノ餘唾ニメ隨  
 テ説キ隨テ筆セシムル者ニメ疎暴杜撰ノ罪  
 ヲ免レスト雖氏姑ク其請ニ任スト云爾

一譯文ノ義理往々解了シ得カタキ條アルモ忽

之ヲ原文ニ配照參考スルニ遑アラヌ或ハ其  
 疑條ヲ録シ郵贈シテ之ヲ東京桑田先生ニ質  
 問シ或ハ男春熙ニ訂正セシメ或ハ按ノ字ヲ  
 冒シテ聊臆度ノ鄙見ヲ加フ若シ誤謬アレハ  
 他日諸哲ノ教示ヲ承ケ之ヲ改刪センヲ要ス

一藥劑ニ至テ從前ノ醫家習用セサルノ品ナキ  
 ニアラス仍テ其品ヲ載セテ其効用ヲ畧記シ  
 並ニ製劑ニ至テ其方ノ判然タラサル者ハ畧  
 之ヲ揭示シ以テ便覽ニ供ス

一打聽兩候ノ如キハ假令之ヲ記示スルモ熟習



ニアラスンハ會得スルニ至ラス且ツ別ニ詳  
解ノ書アルカ故ニ之ヲ贅セサルナリ

明治十二年孟冬於黃雨書樓南窓之下

江馬元齡誌

抄語病門

標目

第一編呼吸器諸病

肺炎部

胸膜炎部

肺疽部

肺氣脹部

氣管支炎部

喘急部

氣喉炎部



嘔嗽部

格魯布部

肋間痛部

胸搐部

肺勞部

第二編血液循環系諸病

心包炎部

心内膜炎部

瓣脈病部

アンキナペクトリス部

グレープ病部

胸部大動脈瘤部

腹行大動脈瘤部

第四編消食器病

口炎部

口疽部

乳母口炎部

扁桃腺炎部

食喉炎部

慢性胃炎部



胃潰瘍部

胃癌部

胃弱部

消食器諸病

自腸部至肛門

便秘部

腸炎部

腹膜炎部

疝痛部

腸管壅塞部

霍亂部

下利部

小兒霍亂部

痢疾部

盲痔部

肛門裂傷部

肝脾諸病

肝臟急性充血症部

肝臟炎部

黃疸部

肝臟硬結腫部



肝臟蠟樣變質部

肝臟癌腫部

胆腑膨大部

脾臟病部

腎膀胱諸病

腎臟充血症部

尿毒病部

腎臟炎部

急性グリフト病部

慢性グリフト病部

尿石病部

尿管部

蜜尿病部

腎臟水腫部

腎臟膿瘍部

腎臟癌腫部

腎臟結核部

腎臟ヒダチツト部

遺尿部



内科摘要抄語解卷之一

美濃大垣

江馬元齡編述

尾崎謙二郎

門人

澤汀舟

筆記

兒玉良三

第一編呼吸器諸病

肺炎部

○肺ノ實質

肺ノ實質ハ氣脈キキツクト氣胞キキツクト密織ヒツク疊束ノ成ル其氣脈キキツクナル者ハ軟質ニヤク又ヒ筋纖維ト經緯織成ス



ル所ノ細微管ヲ謂フ其氣胞ナル者ハ氣脈ノ末梢微細ノ盲囊ニ終ル者ヲ謂フ又其間ニ結締織アツテ共ニ之ヲ繚綴ス

○寒冷濕濡

古來寒冷ニ冒觸メ皮膚ノ蒸發ヲ遏止シ有害分ヲ釀スノ説アルモ越氏ノ説ニ據レハ其有害分ナルモノ何的ノモノタルヲ未タ目撃セストイヘリ蓋シ寒冷ノ入身ニ感スル所以ハ皮膚脈管ニ分布セル運動神経系ヲ侵襲シ是ヨリ反射機ヲ他ノ同系ニ傳達シ始メテ病候

ヲ現發スルナリ又爰ニ所謂濕濡ハ恐クハ卑濕不潔ノ大氣ヲイフナラン尋常大氣中ニ多ク濕分ヲ孕含スル片ハ皮膚及ヒ肺ヨリ呼出スル水分減量ス故ニ肺炎等ハ緩快ヲ得ル之ト異ナルヲ知ルヘシ

○註獨發症

獨發ハ本發ノ義ニメ繼發ノ對稱ナリ例之ハ寒冷ノタメニ直ニ肺炎ヲ來タス者ヲ獨發或ハ本發トシ氣管支炎或ハ胸膜炎等ヨリ肺炎ニ轉及スル者ヲ繼發ト謂フ



○泰裴土性肺炎

老人若クハ虚弱質ノ者肺炎ニ罹レハ全ク咳嗽ナク其確徴タル鏽痰ヲ欠キ又呼吸困難若クハ疼痛等ノ證狀ナク只泰裴土熱狀ノ徴候ノミノ現發スルヲアリ或ハ強實ノ人ト雖氏間肺炎ニ急性胃腸加答兒ヲ合併スルヲアリ蓋シ此病名ハ泰裴土ニ似タル肺炎ト云義ニメ泰裴土ヲ兼子タル肺炎トイフ義ニアラザルベシ

○慢性肺炎

真ノ慢性肺炎ナルハ一名肺小葉間炎トモアリ即小葉間ニ結締織ヲ刺生シテ肺質纖維様變硬ヲ生スル者ナリ然ルニ今爰ニ説ク所ノ慢性肺炎ハ急性肺炎ヨリノ继发症ニメ初期ヨリメ慢性肺炎ノ持續症トイフ譯ニテハナシトイフ義ナリ

○全身抑壓期

皮膚毛細管收縮シ生カ一時抑壓ヒラル、所ノ惡寒期ナリ

○尿中ニ尿素ヲ過剰ス



尿素ハ炭酸窒各二水四ヨリ成ル蓋シ諸熱性病ニ於ルカ如ク体中酸化機能ノ旺盛スルニ由テ過剩ナルナリ元來尿素ハ無機分ニ算入スト雖氏蛋白ノ零廢物ニメ有機分ノ下等實ハ兩間ニ属ス

○粘液淋巴

粘液ハ粘液膜ヨリ分泌スル所ノ者ニメ淋巴ナル者ハ即其細胞体タルヤ元ト毛細管ヨリ漏出スル白血球アリ又氣胞内上皮細胞ノ繁殖スルヨリ生スル者ニメ必竟細胞ニ富メル

粘液ニ少許ノ血液ヲ混シテ肺炎ノ徴タル<sup>カサ</sup>鏽痰ヲ形成スルナルヘシ

〔附録〕淋巴ニ血漿トモ譯セリ又<sup>リキ</sup>液ヲ血清トモ名ク淋巴ハ即血清ヨリ吸收シタル者ニシテ淋巴管オスモ<sup>リス</sup>ノ力能ニ由ル者ト見ユ丹氏ニ淋巴ヲ白血球又一ニ白細胞トモ出ツ稍圓形ニメ粒狀軟核ヲ有スト云

○咯痰硝酸銀ノ試験

硝酸銀水ヲ取テ其痰中ニ點スレハ痰中格魯兒曹曾謨ノ反應ニ由テ白濁トナル丁甚キヲ



以テ格魯兒ノ過剩ナルヲ視ルヘシトイヘリ  
〔按〕硝酸ヲ遊離シテ格魯兒化銀トナルノ謂ナ  
リ

○肝様變質

一二肺臟化肝ノ名アリ剖驗ノ際ニ於テハ肺  
組織ヲ片截スレハ氣胞内ニ填塞セル纖維様  
滲出物ニ由テ一種顆狀ヲ呈シ氣胞間ノ組織  
ハ充血ノタメニ暗赤色トナリ且其質脆クメ  
破碎シヤスク酷タ肝組織ニ類似スルヲ以テ  
斯ク名クルナリ

○肺痿

氣管支壅塞メ其末梢氣胞内ニ大氣ノ通透ヲ  
失スルカ故ニ痿縮スル者ヲ名ク詳ニ肺痿ノ  
部ニ出ツ

○第二期中ノ蛋白尿

熱度高騰ノタメニ腎臟顆粒狀變質ヲ起スノ  
徴トス

○吐酒石ノ効用

爰ニ此品ヲ採用スルハ祛痰若クハ催吐ノ効  
ヲ要スルニアラス專ラ肺炎ノ一症候タル熱



勢ヲ低下セシメンカ爲メナリ○一ニ酒酸加里安質母尼ノ名アリ重酒酸剥葛亞斯ト第三酸化安質母尼トノ抱合重複塩ニメ血管系ニ鎮降ノ効ヲ奏シ心動體温ヲ減殺シ發汗下泄祛痰催吐ノ主用藥タリ

○硫酸規尼

塩基規尼ニ硫酸一水七ノ抱合塩ナリ強壯解熱防定期

○芳香硫酸

再餽火酒一巴半硫酸三汚半桂皮一汚半干姜

一三

○亞產黎蘆 ベラドリアヒリデ

一名綠黎蘆丁幾或ハ流動越幾ストシテ用ユ軌迄實芟荅利斯ト同シク心動及脈數ヲ減シ體温ヲ低下セシムル爲メニ使用ス

胸膜炎部

○單複兩症ノ別

註ニ單ヲ偏肺症複ヲ兩肺症トアルハ猶偏側症兩側症ト謂フカ如シ按スルニ肺ニ激衝係累セルヲ以テ爾カ云ニ非サルヘシ



○二巴

亜ニテハ一巴ヲ十六多トナスニ巴ハ我力二百五十六及許ニ當ル

○合併肝炎

註ニ胆汁性胸膜炎トアリ胸膜炎ノ肝臓ニ連累メ炎ヲ發スレハ必ス胆管ノ障害ナカルヘカラス然ル片ハ胆汁ノ變性硬滯黄胆等ヲ誘起ス之ヲ胆汁性ノ胸膜炎ト謂フヘキナリ

○肋間神經痛症ノ別

肋間神經ハ脊髓神經ノ一二シテ其數十一對

悉ク背神經ノ前支ヨリ來ル

○複方杜松子精

杜松子油一ヲ半葛縷子油温風茴香油各十ヲ

稀亜尔箇兒八巴

○醋酸刺蒿亞斯

酒石葉緩下利尿解凝

○重酒酸刺蒿亞斯

酒石英緩下清涼利尿

○一酒盞

大九ソ二汚



○ルゴール氏沃實水

沃顛廿五沃度廿五氏ヲ水三汚ニ溶ス

○助骨隅

隅一ニ角トモイフ每肋ノ右方ヨリ前方ニ屈  
曲スル隅角即正シク胸脇ニ當ル

肺疽部

○亜硫酸曹達

此塩ハ炭酸曹達ノ溶液ニ亜硫酸瓦斯ヲ通和  
セシメテ之ヲ得ル用方ハ專ラ亜硫酸ノ効ヲ  
主トス之ヲ服スレハ分解メ亜硫酸瓦斯ヲ發

生スルヲ以テ胃ノ泡酸敗ニ因セル嘔吐ニ  
用ユ諸病ノ用方ハ未タ一定ニ至ラス芒硝ニ  
代用スルハ未タシ

肺氣脹部

○顔魯密度及沃度加里殺蟲効用

此二塩基ヲ殺虫藥トシ用ヒシハ實効兒薦氏  
ヲ嚙矢トス蓋シ此塩基類ノ刺衝ニ因テ驅虫  
ノ効アル所以ヲ考フルニ允常鑿家ノ海入草  
ヲ用ユルト其効同一ニ歸スルナルヘシ然レ  
氏分析の上ニ於テ檢セサレハ其成分ノ何如



ヲ定ムルコトアタワス

○加茂刺

此殺虫藥ハ英ノ軍醫マツキンノン氏ノ發明  
ニシテ三了以上ノ用量ハ峻下瞑眩ス

氣管支炎部

○酒酸加里曹達 ソーデーエトポットアスタルトラス

魯設兒塩ト稱スル者ニシテ重酒酸剝蔦亞斯  
ニ炭酸曹達水ヲ加ヘ二塩基相抱合中和シテ  
炭酸ハ飛散メ複塩ヲナス者ナリ緩清涼下泄

○亞麻仁茶

成分「マルカリ子」「エラ子」「ゴム」澱粉脂肪油

○耶麻依加蔗糖精

〔按〕耶麻依加ハ亞國ノ地名ナリ又耶麻依加胡  
椒精等ノ劑名アリ

○忽布浸

忽布三了熱湯半巴ニ浸漬ス和名カラハナ草  
ト呼フ鎮靜強壯小麻酔

○骨汗拔々兒撒謨

揮發油華爾斯及小量ノ酸ヲ含ム粘膜上ニ衝  
動ヲ起シ泌尿ノ効アリ又寺露拔兒撒謨蔦露



按兒撒謨アリ總テ衝動祛痰ノ効ヲ奏ス

○複方刺賢埜兒精

刺賢埜兒精一巴半オスリニ迷迭香オス半巴桂皮肉豆

蔻各二子半吉納奴五子浸漬

○結列屋曹葛

爹兒油ニ炭酸刺葛亞斯酒石ヲ和シ蒸餾メ燐

酸ヲ加ヘ諸母尼亞ヲ以テ和シ更ニ蒸餾メ苛

性刺葛亞斯ヲ加フ蛋白液ヲ凝結シ防腐ノ効

アリ

喘息部

○乾蕪喘息

秋晚降霜ノ候ニ至テ草蕪ノ類悉ク乾枯シ其

セル大氣中ニ浮遊スル者ヲ吸入シ喉頭及氣

管粘膜ヲ刺衝シ痙攣性ヲ發スル者ヲ名ク

○神經性尿

尿管運動神經ノ作用ニ由テ腎臟小動脈中ノ

血壓旺盛シ随テ水分ニ富メル多量ノ稀尿ヲ

排泄スル者ヲ謂フ

○尿素及ヒ食塩ニ乏シ

[按]喘息ノ發作歇ムノ期ニ至テハ呼吸道粘液



ノ分泌頗ル增多スルヲ以テ尿中一時尿素及  
 格魯兒塩ノ減少ヲ致ス者ナランカ蓋シ塩類  
 ハ焚燒機旺盛ナル病室扶斯ニ於テハ其量増  
 多シ又血行系ニ障碍アル病心肺等ニ於テハ  
 減少ストイフ

〔附録〕尿素ヲ檢スル簡易法アリ尿中へ先ツ炭  
 酸曹達ヲ入レ之ヲ亞尔加里性トナシテ硝酸  
 汞硝酸三價半ニ水銀一分子半ノ溶液ヲ注加ス  
 レハ白澱ヲ沈降ス是即チ尿素ニ和量ト硝酸  
 汞四和量トノ抱合物ヲ呈スルナリ

○アングナペクトラリス

一二心臓痛トモ譯セリ解ハ本條ニ詳ナリ

○洛別里亞丁幾 第十八方

合衆國ニ産ス通常印度煙草ト呼フ成分ハコ  
 ベリソク酸ゴチナ揮發油等ニメ鎮降麻醉

○忽布滿鎮痛液 一名複方遏葛兒

硫酸ニアルコールヲ合シ蒸餾ス之ヲ遏葛兒  
 油ト稱ス更ニ之ニ強アルコール等分ヲ和シ  
 稀釋スル者

○稀靑酸 第二十方



藏ト水素ノ抱合物ヲ青酸ト曰フ醫治ニハ含  
水青酸ヲ用ユ心ノ機能ヲ鎮制シ神經刺衝ヲ  
減却ス咳嗽喘息ニ良

○プリユニス、ファイルギニアナ

強壯鎮痙心臟機能ヲ鎮靜フ胃弱間歇熱等ニ  
モ用ユ

○藍丸 一名青汞丸

水銀一分ヲ玫瑰昆設兒弗一分半ニ研和シ星  
ナキニ至リ甘草膏ヲ混シ丸トス

○硝塩酸

此品ヲ喘息ニ用ユル目的ハ恐ラクハ消化營  
養ノ機能ヲ保有シ且輕換ノ効ヲ取ルナラン

氣喉炎部 ラリシゲース

○聲門水腫

會厭軟骨及會厭披裂軟帶上ヲ被覆スル所ノ  
緩鬆ナル粘膜炎下組織中洩乙液浸淫シテ腫脹  
シ声門狹窄スル者ナリ其甚シキハ會厭軟骨  
舌本ヨリモ高ク突脹スル者アリ

嗄嘶部

○發聲器



声門帶ヲ指メ謂フ即會厭甲狀トノ隅角ト披裂基礎ノ前角トニ陟ル彈力組織ノ声膜ナリ

○越歴カノ導引法

磁電氣等ノ感傳電氣ヲ施用スルノ法ニシテ一二之ヲフワテ「氏ノ越歴療法ト謂フ此本性ハ活体神経系ト親密ニメ刺衝運動ヲ振起ス導引法是ナリ緊咳呼吸機ノ不利症ニハ神經運動ヲ尤進スルカ故ニ害アリ

○蓬酸曹達

一種ノ山産加里塩基ニメ塩酸加ル基塩酸苦

土ヲ含ム丁多シ昇汞水ヲ加フレハ黄赤色ノ反應ヲ呈ス加荅兒性嘎嘶ニ用ユ○近説ニ滋養ノ効ヲ稱セリ予ホタ之ヲ信スルアタワス

格魯布部

○聲門ノ閉縮筋

此筋ハ声帶ヲ緊張セシメ声門ヲ閉収スル所ノ筋ニシテ側環状披裂筋及横斜披裂筋等ヲイフ

○吐根明礬 第二十四方

明礬ノ配合解了シカタシ蓋シ明礬ハ硫酸礬



土四十九分硫酸剥蕙亞斯七分結晶水四十四分ノ複塩ニメ爰ニ用ユル目的ハ大量催吐ノ効ヲ助クルカタメカ

○從前諸母尼亞ノ實驗說

從前唱フル所ノ効用ハ唯粘膜ヲ刺衝シテ粘液ノ分泌ヲ促進シ皮膚ノ發汗解凝ヲ主トスルニ似タリ輓近ニ至テ之ヲ硝酸加里ト全効トイヘルハ纖維素溶解ノ効ヲ採用スルナリ

○醋酸効用

蛋白質ヲ融解スルニハ有機酸中ノ最タル者

トス且角樣質及表皮モ溶解スルノカアリトイヘリ

○生石灰沸湯ノ吸引法

石灰ノ本効ヲ論スレハ收斂強壯制酸淨刷ノ効ニ歸スヘシ輓近格魯布ニ於テノ稱用ハ加里塩基ノ纖維素溶解力ニ原ツクトス

肋間痛部

○殊ニ其左側ニ發スル者最多シ  
或ル人ヨリ左側ニ發スル最モ多キ所以ノ病理ヲ質問セラレ立トコロニ辨スルアタワス



退テ熟考スレバ確當ノ理ヲ得難シ己ムヲ得  
スメ牽強附會ノ臆說ヲ吐テ其責ヲ塞ク幸ニ  
之ヲ録メ他日諸明哲ノ教示ヲ竝ツ

[按]越氏ノ說ニ筋纖維束ト雖モ動靜ノ多少ニ  
關シ差異ナキコトヲ得ス動作筋中ノ血液ハ靜  
止筋中ノ血液ニ比スレハ酸素多ク減乏メ炭  
酸多ク増加ストイヘリ是ニ據テ之ヲ考フレ  
ハ右肋筋ハ動作強ク左肋筋ハ靜止多シ且ツ  
ミユコシ筋中ノ蛋白質液モ饒多ナルカ故ニ筋腱強  
靱ニメ儂麻質私ヲ感受シ易キニ由ルナラン

カ

○肋間神経痛

胸膜炎部ニ詳ニ出タス

○双蘭菊丁幾 第二十七方

神経系ニ鎮降ノ力ヲ逞フシ血行力ヲ減殺シ  
知覺機ヲ壓絶ス

○罾囉吩啞 第二十八方

アルコールト含格魯兒石灰トノ反應ニナル  
即チアルコール中ノ水素一分ヲ奪ヒ過格魯  
兒石灰ト水素トヲ生シ兼テアルコールニ格



魯兒ノ一分ヲ與ヘテ哥囉叻密ヲ形成スルナリ

○歇羅馬里亞 第二十九方

元質<sup>セ</sup>バチル<sup>ラ</sup>神經痛儂麻質私ニ効アリ

胸壁部

○淺位ノ胸筋

淺位筋ハ大胸筋ヲ指スカ如シト雖<sup>凡</sup>其底下ニ占位スル小胸筋モコメテ謂フナルヘシ

肺勞部

○患者ノ口ヲ閉テテ穿穴響ノ低キ

壺口ヲ蓋閉シテ其底ヲ打ツキハ其音清高ナラサルカ如シ

○肺勞痰汁ニ腐蝕曹達水ヲ加ヘ「フェンヴヰツキ氏」ノ試験

腐蝕曹達ノ溶液ヲ痰汁ニ加フレハ蛋白質ヲ溶解シ肺ノ彈力纖維ヲ分離沈澱セシムルノ検査法ナリ

○結核性腹膜炎

此症ハ腹膜間粟粒結核ヲ生成メ腹膜ノ慢性炎ヲ發シ水腫ヲ將來スル者ナリ



○健全學

此一科ハ軌迹ノ最モ重ンスル所ニメ總テ人  
体ノ健康ヲ保摂節守セシメ疾患ヲ未發ニ防  
禦セシムルノ學科ニメ即大氣居住飲食衣服  
其他何物ヲ論セス凡テ人身ノ利害得失ヲ推  
究スル等之ニ屬ス

○慢性氣管支炎ト肺勞トノ鑿別

此鑿別ハ本條ニ参照メ分明ナリト雖凡讀過  
スル毎ニ疑迷ナカラシカ為メニ大略ヲ揭示  
セリ蓋シ慢性氣管支炎ハ肺炎ノ繼發ニ屬シ

粘膜底ノ結組織肥厚シ筋ノ縱層モ亦彈力ヲ  
失メ蛋白質膿狀物ヲ分泌ス肺勞ナルハ素因ヲ  
有メ胞膜間ニ滲出物ノ結核ヲ形成スル者ヲ  
謂フ一ニ慢性肺炎ト稱ス

○肺勞ハ北地ノ病ニアラサルモノ猶南カロリ  
ナ邦、、

此文義ハ肺勞ナルハ原ト北地ニハ少シ其證  
據ハ南カロリナニ於テハ多ク之ヲ患ヘ又其  
地ヨリ北ニアタルマイン邦ニハ患者ノ數減  
スルヲ以テ知ルヘシト云意



○飲穴ニ鑛物ヲ含ム

銅鉛鐵並鉛安質母尼謨滿俺錫硫黃加爾基珪土砒石ノ類

○肝油

白黃黒ノ三種アリ白ヲ上好トス黄ハ之ニ次ク黒ハ藥用ニ供シカタシ其成分ハ「カジユイ酸」  
鯨魚 動物脂酸 璵珠酸 胆酸 沃顛 貌魯密 扭謨 磷  
酸及 磷酸 加爾基 磷酸 曹達 同 鑛 同 麻 屈 涅 叟 母  
硫酸 末 尔 瓦 里 涅 脂 硬 等 ヲ 含 孕 セ リ

○傑列

之ニ二種アリ甲ハ動物ノ膠質ヲ精製スル者ニメ動物傑列ト謂ヒ乙ハ植物粘汁ヲ舍利別ノ調トナス者ニメ植物傑列ト謂フ

○屈李設林

油糖又甘油トモ稱ス動物ノ脂肪及固性油中ニ脂酸ト抱合シ存ス通常石鹼ヲ製シタル后ニモ遺殘ス又酸化鉛膏ヲ製メ后ニ殘レル溶液ニ硫化水素ヲ通シテ鉛分ヲ去リ之ヲ得ルトイヘリ

○苦扁桃油 第三十一方中



青酸ヲ多ク含ム元質ヲ「アミイグタリ子トイ  
フ鎮痙麻酔

○拘椽酸諸母尼亞鏤規尼 第三十二方中

拘椽酸鏤ヲ諸母尼亞水ニ溶シ規尼ヲメ飽和  
セシメタル重複塩ナリ

○比里時國

荷蘭近傍ノ國名

○磷酸加爾基

骨灰ヲ塩酸ニ溶シ之ニ諸母尼亞ヲ加ヘ沈澱  
セシメ製ス加爾基三磷酸五ノ抱合ヨリ成ル

○磷酸鐵

硫酸鏤ト磷酸曹達トノ複擇親和ヨリ成ル水  
ニ溶解セス稀酸類ニ溶解ス強壯

○塩酸剥蕪亞斯

「スユルビ」猩紅熱及扁桃腺炎口炎汞毒性流  
涎ニ含嗽藥トシ偉効アリ清涼利水

○砒酸肺勞ニ効用ノ論理

小量ニ用ユレハ胃ニ溫暖ヲ覺ヘ食思ヲ増シ  
尿利ヲ促進ス又小量ニ久服スレハ筋力ヲ強  
健ニシ補給機ヲ改良シ呼吸力ヲ増加ス之ヲ



大量ニ用ユレハ消食機系ニ炎ヲ起シ尿管ヲ  
收縮シ嘔吐下利ヲ發ス

○硝酸ニ格魯兒鍊丁幾肺勞効用ノ論理

硝酸ニ格魯兒鍊丁幾ヲ加ヘ肺勞ニ効ヲ取ル  
ノ主治未タ詳ナラス且ツ硝酸ノ量過多ナル  
ニ似タリ蓋シ華氏ハ只ローゼン氏ノ經驗ヲ  
擧クルノミニメ確信スヘカラサルナリ

〔按〕爰ニ用ユル所ハ硝酸ニ鍊丁幾ヲ加用ス  
ル者ト看做シテ可ナラン

○的野荅幾斯

草汁ノ凝固セシ者ニメ肺勞咳嗽ニ効アリ麻  
醉發汗

○格魯刺兒澈度刺萬

一千八百六十九年<sup>明治二年</sup>里美布氏ノ發明ニシ  
テ炭四水一格魯林三酸一若クハ二ト抱合シ  
更ニ水素二分ヲ含孕セル白塩ナリ一説ニ格  
魯林瓦斯ヲ無水亞爾齒兒ニ飽充セシムレハ  
夥シク塩ヲ液中ニ形成ストイヘリ

○藏化剝薦亞斯

強烈毒ニメ麻酔ノ効アリ允テ痙攣及ヒ胃痙



二用ユ老利兒若クハ苦扁桃水ヲ代用スルモ可ナリ

○麦奴

靱近ノ發明ニハ麦奴酸ト結合スル所ノ揮發ナル「アロガロイド」塩基アツテ之ヲ「セカリ」アト名ク塩漬青魚ノ臭分「プロヒラミン」ト同一ノ者トイフ

○「フランセル」氏「莨菪」發汗減却ノ効用

靱近ノ説ニ「莨菪」ノ發汗ヲ減スル効ハ動脈ノ運動神經ヲ襲ヒ皮膚循環スル所ノ細血管ヲ

收縮セシムルニ在リト云

○「慳吝」ト「克復」トヲ通旨トス

「慳吝」トハ「愛惜」ノ義ニメ「克復」トハ「已ニ「克」テ禮ニ復ル」ノ古語ヨリ出ツル者ニメ「可成的」及「復丁寧」ニ注心メ「妄施」スヘカラスト云義ナラン

第二編血液循環系諸病

心包炎部

○心包 一名心囊

心包ハ胸膜ニ均シキ「湯乙膜」ニメ「心臟」外面ヲ被覆シ更ニ「翻轉」メ「囊狀」ヲ形チツクリ上ハ大



血管下ハ横隔膜ニ連繋ス故ニ二層膜囊ノ如クナリ其間隙ニハ液ヲ分泌シ心ヲメ滋潤滑利セシム

○心響

第一響ハ左右心室ノ收縮スル片ニ發スル音ニメ血液大動脈及ヒ肺動脈中ニ進入シテ其脈壁ヲ擴張セシムルヨリ發ス其音長フメ高シ「ロツ」<sup>ロ</sup>ノ音ヲ聽ク  
第二響ハ心室ノ弛緩スル片ニ發スル音ニメ大動脈及ヒ肺動脈半月瓣ノ心壁ニ纏轉シテ

以テ血液ノ反激震撞ヲ受ルヨリ生ス

左室二尖瓣ノ左心耳ト左心室間ノ位置ハ胸骨下第四肋ノ部

左室大動脈半月樣瓣ノ位置ハ第三第四肋軟骨部ノ中央

右室三尖瓣ノ右心耳ト右心室間ノ位置ハ胸骨下第四肋ノ部

右室肺動脈半月樣瓣ノ位置ハ胸骨及第三肋連接ノ部

○口セール塩



製法氣管支炎ノ条ニ出ス

○炭酸剥蔦亞斯

酒石塩ニメ其効重炭酸剥蔦亞斯ニ同ク稍緩ナリ

○枸橼酸剥蔦亞斯 第三十八方中

枸橼酸水ニ酒石英ヲ飽和セシメ白粒粉トナス者火ニ上セハ炭酸剥蔦亞ストナル

○沙蘿菴根 第四十方中

衝動利尿發汗

○洋芥 トロネリニク 同

腎病及ヒ水腫ニ効アリ

心内膜炎部

○トロンボシス

凝血ノ義ニメ活体脈管内ニ血中ノ纖維素凝結メ血行ヲ遏塞スル者ヲイフ

○エンボリズム

栓塞ノ義ニメ所謂「トロンボシス」ノ軟化破碎シテ血行ニ随ヒ循流中終ニ脈管内ニ繫着栓塞スル者ヲ謂フ但シ其大小長短齊シカラス殊ニ小動脈及毛細血管ノ患トス



辨脈病部

○網膜脈ノ搏動

檢眼鏡ヲ以テ覗フキハ視神經幹ノ眼球ニ入  
ル部ニ當テ鮮紅色ナル網膜動脈ノ分歧放散  
スルヲ見ル是即チ此動脈ノ搏動ナリ網膜ナ  
ル者ハ無髓透明ナル神經ノ細纖維質相錯綜  
メ網狀ヲナシ硝子体ヲ圍擁スル者ヲイフ

○心質ノ脂化

心ノ實質ノ脂質ニ變シ常機ヲ妨クル者ヲ謂  
フ本條ニ詳カナリ

〔附録〕先哲ノ論ニ真ノ心質脂化ノ候ハ鑿別景

モ難シトイヘリ予醫域ニ從事スル五十餘年  
未タ心ノ脂化ノ真症ヲ見ス吾カ門江澤養需  
從來過飲且ツ心勞少ナカラス躰軀倦怠顔面  
蒼白呼吸不利等ノ症ヲ發シ荏苒トメ治セス  
岐阜病院土屋氏ニ診フ乞フ曰心質脂化ノ症  
ナリト爾后藥セスメ治ス按スルニ脂化ノ真  
證ニアラスメ診決ノ曖昧タルヲ疑フ容ル  
ニ足ラサルナリ

アンギナペクトリス部



○冠狀動脈ノ化骨症

此動脈ハ心ヲ榮養スルカタメノ者ニメ左右アリ甲ハ大動脈ノ左側ニ起リ肺動脈ト左心耳ノ間ヲ過キ分レテニ支トナリ両室間ノ縦溝ヲ下テ尖端ニ達シ右脈ト合吻ス乙ハ大動脈ノ右半月瓣ノ直上部ニ起リ右心耳ト心室間ノ横溝ヲ循リ下テ尖端ニ達シ左冠靜脈ト合吻ス此脈ノ化骨症ハ血液中ノ加爾基塩ノ沈澱ヨリ形成ス蓋シ健全ナル脈壁内ニハ沈澱ノ患アル丁ナシ必スアテロマ狀ノ脈壁病

的變質ヨリ將來スル者トス

○芳香礮砂精 第四十七方中

礮砂五多炭酸剥萬亞斯八多桂皮丁香各二多  
枸椽皮四多アルコール水各五巴ヲ蒸餾メ七  
巴ヲ取ル

又

炭酸安母尼亞一多安母尼亞水三汚アルコ  
ル一巴半ニ溶化シ水ヲ加テニ巴トナシ枸椽  
油二多半肉豆蔻油四十mlラーヘンデル油十  
五mlヲ加フ



○復方益智丁幾 同

益智六子葛縷子二子桂五子干葡萄五子呀嘯  
虫一子稀アルコール二巴

○格兒失屈謨根酒 第四十五方中

根ハ多設里酒二巴ニ浸漬ス味苦苛ニメ格兒  
失規尼苦味ト澱粉ヲ含メリ分泌ヲ促進シ血  
行鎮降ヲ來タシ峻下嘔吐腹痛ヲ起ス

グレイプ病部

○甲狀腺 一名含血腺

氣管上端ノ前側ヲ圍擁シ喉頭ノ各側ニ達シ

外部ハ薄キ纖維膜ヲ被覆シ内部ハ纖維組織  
ノ間隔アリ其胞ハ有挾セルノ一層ヨリ成ル  
而シテ琥珀色ノ粘稠液ヲ含有ス

此作用諸説一定セス一説ニハ全身血液補給  
ノ原醅ヲナス者トイヘリ又越氏ノ説ニハ此  
腺ノ腫大スル症ニ於テハ胞内ノ有挾セル常  
ヨリモ細小ニメ白血球健康ノ人ヨリ多ク殊  
ニ小球ナリ是レ血液成分ヲ造成スルヲ證ス  
ルニ足レリト云尤モ動脈ハ巨大ニメ胞間及  
ヒ其壁膜ニ布蔓シ右縁ハ頸部ノ大血管

外頭  
動脈



起根ノ直ニ甲状腺ニ達スル者ト關係セリ此腺婦人ハ男子ヨリ巨大ナルカ故ニ腫大ニ罹ル者多シト云又「モントハルケス」氏ノ説ニ此腫大ノ病因ハ該地ノ水ニ係ルトイヘリ蓋シ加尔基苦土花崗石等ノ磐地ヨリ流レ來レル水或ハ雲母結麗多等ヲ雜ユル水ヲ平常飲用スルニ因ストイヘリ

○項部感傳神經節

此神經節ニ上中下ノ三ツアリ上神經節ハ最大ニメ第二第三項推ニ對シ中項神經節ハ最

小ニメ第五項推ニ對シ下甲状動脈ノ上ニアリ是ヲ以テ「ホルレル」氏ハ之ヲ甲状神經トモ唱フ下項神經節ハ第七項推ノ横突起ト第一肋骨頭ノ間ニ在テ稍大ナリ

○沃度貌魯謨加尔叟母

製法未タ詳ナラスト雖モ沃度貌魯謨ニ加尔基塩ヲ飽和セシムル者ニノ變質吸收機ヲ促進セシムルヨリ他ナラス

胸部大動脈瘤部

○胸部大動脈



背ノ第三椎左側ニ當テ大動脈ヲ、末端心ヨリ方  
 側ニ傾テ右肺動脈ト氣管支ヲ起シヨリ起リ  
 左側ニ由テ背椎ノ第三脊ニ達ス  
 右側ハ胃管胸管乳糜脈水脈左側ハ左胸膜ト  
 左肺ニ接ス蓋シ大動脈ハ下腹ニ降ルマテハ  
 分岐セス只其間ニハ數条小分支ヲ分與スル  
 ノミ

○反行氣喉神經

第十對迷走神經一ニ肺胃神ノ一支ニメ之ヲ  
經ト名ク  
 下喉頭神經ト稱ス左側ニ在テハ大動脈ヲ  
 下行反轉シ右側ニ在テハ鎖骨下動脈ノ前方

ニ下行シ再ヒ下方ヨリ右方ニ反行シ兩側共  
 ニ氣管ト胃管ノ中央ヲ上行シ喉頭ニ達ス

○其瘤巨大ナルモ却テ搏動ノ微弱ナル者アリ

**按** 經又ノ動脈瘤ニ於テハ其内壁ニ血中ノ纖  
 素凝着シテ漸ク厚層トナリ瘤内ニ纖素縱横  
 ニ錯綜シテ直ニ脈動ヲ傳ヘサルニ因リ或ハ  
 又脈壁ノ廣脹ス血液ノ激迫緩慢ナルニ由ル  
 ナラン

○其壓迫ニ因テ一二脊推骨自ラ吸收セラレテ  
 終ニ全ク消耗スルニ至ル



〔按〕單ニ器械的ノ壓迫ニ由テ骨質ノ消耗ヲ來  
タシ漸次ニ加ル基塩ヲ吸収セラル、者ナラ  
ン決シテ動脈血ノ供給有無ニ關セサルナリ

腹行大動脈瘤部

○腹部大動脈

此動脈ノ根基ハ心ノ大動脈弓ノ末端ヨリ起  
ル所ノ胸腔大動脈ヨリ連續セル者ニメ背推  
ノ第十二肋ニ當テ橫膈膜ヲ穿ツ所ヨリ始マ  
リ脊椎ノ稍左方ヲ下リ腰椎ノ第四肋ニ達シ  
テ二條ノ普通腸骨動脈ニ分岐スル者ナリ

○兔筋ノ潰瘍

兔筋ニ大小アリ甲ハ背推ノ末片ト腰椎ノ各  
片ノ横突起ヨリ起リ尻骨盤ノ縁ニ沿テ下行  
シ腱トナル乙ハ大兔筋ノ前方ニ位ス腰椎ノ  
第一二ヨリ起リ薄腱トナツテ尻骨盤ノ縁ニ  
擴張シ腸耻骨隆起ニ結合附着ス

第四編 消食器病

口炎部

○舌質

全質殆ント筋組織ヨリ成リ粘膜一ヲ以テ之

内科要訣詳解 卷一 〇三九 同治癸丑



ヲ被包ス而メ此粘膜舌ノ上面三分二ハ下層ノ筋組織ト密着ス

○明礬水及皓礬水

明礬ハ硫酸礬土アルミニウムノト硫酸剝蔦亞

斯石酒石トノ複塩ナリ皓礬ハ硫酸亜鉛ニメ拵

硫酸ニ亜鉛ヲ溶解スル者ナリ此等ノ品ハ珐

瑯質中布魯兒酸加爾基及ヒ其他ノ加爾基類

ヲ脫離シ抱合スル者ト見ユ

○齒牙ノ珐瑯質

牙齒ノ成分ハ磷酸加爾基ト炭酸加爾基ヲ本

トス之ニ珪酸土質膠質布魯兒酸加爾基エナメル

ハフ會等ナリ之ヲ稀塩酸ニ漬セハ加爾基分ハ

溶解ノ膠質ノミ殘レリ

○亜布底ト齶口瘡ノ監別

甲ハ初期口炎ヲ起シ小泡疹狀ノ小瘡ニ變シ

乙ハ小兒ニ多發ス初期ハ同クメ白キ小點連

合シテ凝乳狀物ヲ含有ス詳ナルハ本條ニ

見ヘタリ

口疽部

○格魯兒曹達



有力ナル防腐藥ニメ不潔ナル潰瘍面殊ニ壞疽ニ傾ク者ニ外用シ若クハ含嗽藥トス

○過酸化滿俺剝萬亞斯

滿俺ニ剝萬亞斯ヲ混和シ製ス即チ滿俺一ト木炭一トヲ混和シ坩鍋ニ入レ白熾トナス片ハ滿俺ノ酸ニ和量ト木炭剝萬亞斯一和量ト親和メ炭酸トナリ聊酸化金屬ヲ留存ス

○格魯兒化亞鉛

白末ニ以ヨク水分ヲ引キ潮解シヤスシ甚キ腐蝕藥ナリ

乳母口炎部

○授乳ノ婦人或ハ妊婦ニ多ク口炎ヲ發シ且小兒ノ哺乳ヲ止ムル片ハ輕快ヲ得ル

[按]是等ノ婦人ニ口炎ヲ發スル所以ノ理ヲ考フルニ生理的ヲ以テ論スレハ全ク刺衝機ノ旺盛ナルニ由ルヘシ如何トナレハ兒舌乳頭ニ觸レハ下刺衝ヲ興奮シ分泌機能ヲ亢進セリ而メ其乳ノ根基ハ腋下動脈ノ大胸枝肋間動脈及ヒ内乳房動脈ノ枝極トス即チ吸乳刺衝ノ餘勢溢レテ充血狀ヲ起シ口内粘膜ノ血



管ニ迄波及スルナルヘシ又妊婦ノ累月ニ及  
 フモ生育機ノ亢盛ナルニ由テ乳腺膨脹シ分  
 泌刺衝機盛ニメ其餘勢ノ口粘膜血管ニ充血  
 ヲ起スモ同一理タルヘシ今立トコロニ諸醫  
 ノ質問ヲ受ケ余ノ日常歷驗スル所ノ鄙按ヲ  
 以テ其責ヲ塞クノミ録メ以テ諸家ニ當否ヲ  
 請フカタメニス

扁桃腺炎部

○扁桃腺

二個ノ腺ニメ咽隘ノ各側面口蓋半子間ノ三

角部ニ占位ス外方咽頭收閉筋ニ隣接シ咽隘  
 方ノ面ハ數個ノ大孔アツテ網目狀ヲナシ直  
 下ノ囊ニ通シ囊底又孔アツテ其直下ノ囊ニ  
 通ス

○硝砂揮發膏

揮發華一匁石鹼二匁若把兒麻膏四匁右石鹼  
 ト膏トヲ烱和シ冷定メ揮發華ヲ研合ス

〔附錄〕若把兒麻膏製法

阿列布油密陀僧各三比家猪脂水各二比右先  
 ツ油ト密陀僧トヲ合シ火ニ上シ時々水ヲ加



一絶へス攪混シ硬膏ノ稠トナシ水ニ投シテ凝固セシム

○内頸動脈ヲ傷ルノ恐アリ

内頸動脈ハ直ニ扁桃腺ニ分布スル枝極ナシト雖モ外頸動脈ヲ離レテ頭蓋内ニ上行スルヤ必ス扁桃腺ノ直右ヲ通過セサルヲ得ス故ニ此傷害ヲ恐ル、所以ナリ

〔附録〕外頸動脈ハ勿論各側ニ在テ咽頭ト交叉シ殊ニ其經過中數枝ヲ分テ咽頭軟口蓋及ヒ扁桃腺ヲ營養セリ之ヲ讀ム者此動脈ノ内外

ニ注目誤述ナカラントヲ要ス

○「フ」子ストック氏ノ發明器械

形狀使用未ク實驗ニ及ハス故ニ他日ノ解ニ讓ル

食喉炎部

○撒兒比亞煎

辛辣衝動麻醉發汗氣管支病疫咳等ニモ良

○榆皮

強壯利尿緩和滋養

慢性胃炎部



○亜硝酸昆斯密篤

強壯鎮痙 砒石ノ夾雜物ヲ檢出スルニハ蒼鉛ヲ稀硝酸ニ溶シ炭酸曹達ヲ加ヘテ分析スヘシ然ル片ハ不溶ノ炭酸蒼鉛沈澱シ消酸曹達ト砒石ノ抱合物ハ水中ニ溶解スル者ナリ

○酸化銀 醫藥品類中

硝酸銀ヲ石灰若クハ剝萬亞斯ヲ以テ分拆シ其沈澱物ヲ乾製スル者ニシテ硝酸銀ニ比スレハ其性緩ナリ

胃ノ潰瘍部

○硫酸鍍加譜母尼亞

収斂強壯効用略明礬ニ同シ

胃瘍部

○良性纖維質

總テ蔓術性ヲ有セサル贅生ノ者ヲ良性トイフ纖維瘤モ亦良性ノ一ナリ

胃弱部

○皮膚ノ機能ハ常ニ胃ノ機能ト相交通ス

皮膚ハ第一道ト常ニ對稱ヲ保ツ者ニメ皮膚ノ蒸發機順整ナル片ハ胃ノ消化機モ亦健全



ナルノ理ナリ

〔按〕胃弱ノ原名ヲ「ヂスペプジア」ト云「ヂス」ハ困難「ペ」プ「ジア」ハ消化ニメ消化シ難キノ義ナリ此ニ許多ノ原因アリ例之ハ胃液ノ缺乏及ヒ其液質ノ不良ナルニ由リ或ハ筋纖維膜ノ弛縦ニ由リ或ハ神經機能ノ衰弱ニ由リ一ナラサルカ如シ今概メ胃弱ノ病門ヲ置クハ其因多端ニメ施治ニ便ナラサルニ因テ姑ク胃弱ノ名ヲ設クル者ト見ユ但シ真ノ胃弱症ハ嗽衝其他曾テ形器的ノ變常ナキ者ヲイフ

○コ、ア飲

コ、ア仁ハ糖澱粉ヲオブロシシ等ノ成分ニメ佳良ノ滋養品トス又歐米ニテハ「シヨコラー」ドトナレテ日常ニ飲用ス

○吉列荅

印度地方ニ産ス性効全ク健質亞那ニ同シ

○複方健質亞那丁幾

健質亞那ニ多半乾橙皮十ヲ益智五ヲ稀亞爾箇兒ニ巴ニ浸漬ス

○番木鱉越幾斯 一名毒胡桃樹



主治衝動局処麻痺効分ハ斯萬里幾尼涅及貌  
尔夫亞ノ斯萬里幾尼倔酸ト抱合セル者ニ係  
レリ

○斯萬里幾尼涅

千八百十八年<sup>1</sup>ベルレチール氏及ヒ<sup>1</sup>カアヘント  
ウ氏ノ發明ニノ亞尔加里性ノ元質ナリ單苦  
味藥トシテ胃ノ嘈雜ニ用ヒ又腸ノ收縮カヲ  
増加セシムルタノニ用ユ其他諸般ノ麻痺例  
之ハ半身不遂局処ノ麻痺等ニ効アリ

○沃實鑛

強壯解凝通經之ヲ鑛液トナシ用ユルヲ便ト  
ス其方沃顛ニ多鑛一多蜜五多水適宜温ヲ加  
ヘ製ス

○複方呵囉聖越幾斯

ゴロシ<sup>1</sup>ン六多蘆薈十二多<sup>1</sup>スカンモニユム<sup>1</sup>四多  
益智一多石鹼三多<sup>1</sup>稀亞尔箇兒ニ浸出ス峻下  
驅水ノ効アリ

○諸鑛泉炭酸ヲ含ム者ノ効用

炭酸ハ胃酸ニ遭ヘハヨク胃ノ刺衝性ヲ緩解  
メ中性塩トナス



○硫酸加爾基

一ニ之ヲ硫酸幾弗私ト稱ス吸收制酸防腐鞣  
込固定縮帶ヲ施スノ用ニ供ス

○胃弱症ニ於テハ肝臟ノ疾患殊ニ其機能ノ怠  
慢

肝ニ疾アレハ必ス胆ノ分泌機能ヲ減シ消化機  
ヲ妨害ス随テ胃ノ機能怠慢スル所以ナリ

○硝塩酸

主要ハ肝臟病ニ胃ノ機能怠慢ナルヲ兼マ  
ル者ニ適應セリ胃ノ加苔見性ノ症ニハ害アリ

便秘部

○腸管筋質膜

筋質膜ハ腸管壁ノ一層ニメ縦横二層ノ無紋  
筋纖維ヨリ成リ腸ノ伸縮即チ蠕動機ヲ主ト  
ル者ナリ

○諸腺ノ分泌液

腺ハ細囊纖維質ニメ無數動靜二脈ノ毛細管  
ヲ網布シ且神經水脈ヲ會織ス一説ニ胆膵及  
ヒ腸ニ於ル送輸管ハ多クハ軟質及ヒ筋纖維  
組織ナリトイヘリ



〔註〕殊ニ梅毒ヲ良トス

梅毒ハ塩基ト糖分ヲ孕含シ下泄ノ効アリ

○下泄ノ九劑ニ莨菪ヲ配用スルハ一般稱用

〔按〕藥物學的ニ據レハ麻醉ヲ主効トス殊ニ腸

ノ蠕動機ヲ發スル神經節ヲ麻痺セシムル所

ノ「アトロピン」ニ歸セリ然ラハ大黃蘆薈等ノ

腸粘膜刺衝ヲ減鎮センカタメニ配伍スルナ

ルヘシ故ニ極メテ少量ナリ或ハ之ニ代ヘテ

菲沃私越發斯ヲ伍スルモ亦可ナリ予老來便

秘ヲ常患トス平常此劑ヲ用ユルニ刺戟太々

緩ニメ快利ヲ得ル

腸炎部

○脱腸ノ窄縊

例之ハ腸ノ一部鼠蹊管ノ如キ一空隙ヨリ脱

出スル症ニメ之ニ數種ノ區別アリ就中其窄

縊ヲ發スルハ腸管ノ全ク壅塞スル者トス此

症或ハ腸膜ノ癒著部ニ腸ノ縮入スルヨリ生

スルアリ又其窄縊メ舊位ニ復セサル者ヲ縮

頭貌倭屈ト云

○アルロールト

英名

〔マラ〕ンタ

羅甸



マラシタアルンジンセアト称スル宿根草  
根ヨリ採收スル所ノ澱粉ノ一種

腹膜炎部

○腹膜ハ廣ク腹内諸臓ニ關係ス

腹膜ナルハ最廣大ナル沕膜ニメ胃腸肝脾  
等ヲ被包スル者ヲ内臓層ト稱シ又腹壁ヲ被  
覆スル者ヲ腹壁層ト謂フ

○産婦蓐熱ノ原因

余常ニ蓐熱ノ病理ニ就テ疑團ヲ免レス且頗  
ル傳染毒質ヲ有スルノ理ヲ解了セス實驗的

上ニ於テ之ヲ按スルニ華氏「イコーレミア」ノ  
説ヲ以テ渙然氷釋スルヲ得タリ即チ「イコー  
ル」ノ腹膜層間ニ氾布吸収スルヨリ腹膜炎ヲ  
繼發スルニ必セリ其他ハ本條一於テ詳ニ記  
載スヘシ

○酸化汞

赤酸化汞一名赤降汞

○炭酸鈔 第八十八方中

收斂清涼局處炊衝ニ撒布シ或ハ硬軟二膏ヲ  
製スルニ用ユ



疝痛部

○尿砂

尿砂ハ尿酸加尔基炭酸苦土諸母尼亜麻俛涅  
失亜曹達等ノ相結合メ結晶形ヲナス者トス

〔胆液疝〕

○綠色或ハ黄色ノ胆液ヲ吐出ス

胆色素<sup>ビ</sup>リブルゲン<sup>素</sup>綠色及ヒ<sup>ビ</sup>リブルゲン<sup>子</sup>

茶褐<sup>色素</sup>ヲ含孕スルニ係レリ

○胆石

胆石ノ化學的抱合ハ專ラ<sup>コ</sup>レスラアリン<sup>硬胆</sup>

脂ヨリ成リ之ニ些僅ノ色素<sup>ビ</sup>リブルゲン<sup>子</sup>ヲ  
帶ベル者ナリ

〔痛風性疝痛〕

○殊ニ胃ヲ侵ス<sup>テ</sup>最モ多シ

痛風ノ胃ニ轉徙スルヤ猶關節ニ於ルカ如ク  
胃ノ粘膜ニ尿酸塩類ヲ沈著スルニ由ルトイ  
フ

〔鉛毒疝〕

○鉛毒ノ作用ニ由テ之ヲ發スル者

諸書ヲ閱スルニ鉛ノ中毒ハ鉛ノ職工或ハ之



ヲ藥用スル者ニ發スト云蓋シ鉛ノ作用ハ体  
 中蛋白質ニ抱合シテ蛋白質化酸鉛ニ變シ胃  
 酸ニ遭フテ溶解シ次テ吸収セラレ諸組織間  
 ニ沈著ス而メ粘膜血管ヲ收縮シ腎ニ凝血ヲ  
 起シ曇黯色トナス殊ニ齒齦ニ青色ヲ呈スル  
 ハ鉛ノ沈著シテ齒頸ヲ周匝スルナリ之ニ鉛  
 綠ノ名アリ其他腸管ヲ萎縮セシメ脂肪腺及  
 横紋筋ヲ消滅シ動脈壁ヲメ硬固ナラシム  
 ル者ニメ鉛毒疝ハ即チ其中毒ノ一症ナリ

〔風氣症〕

○〔本註〕コダイア ナルシイナ

「コダイア」ハ莫尔菲ニ同シ「メコニック」酸苦味麻酔元質

ト抱合ス其効莫尔菲ニ劣レリ此浸汁ニ諸母  
 尼亞ヲ加ヘ試験スレハ莫尔菲分ハ沈降シ「コ  
 ダイア」ハ溶液中ニ貽殘ス○「ナルシイア」ハ莫  
 尔菲塩ヲ結晶セシメテ后其母水ヨリ採取ス  
 ル者未タ其効ヲ驗セス

○薔薇軟膏

薔薇水甘扁桃油各二匁鯨腦半匁白蠟一匁

○芳香大黃舍利別



大黃二多半丁香桂皮半多肉豆蔻二多稀アル  
コール二巴單舍利別六巴

胆液疝療法條下

○胆石ヲ溶解スルニ胆酸曹曹謨ヲ称用ス  
「スキッフ氏嘗テ胆石ニ胆酸曹曹謨ノ經驗アリ  
トイノ恐ラクハ「コレステアリン」ヲ溶解スル  
ノ主要タルヘシ

鉛毒疝療法條下

○硫酸麻痺涅失亜ノ効用  
越氏ノ説ニ鉛中毒症ニ之ヲ用ユル片ハ鉛ヲ

メ不溶解ノ硫酸鉛ニ變セシムルノ理ニ原ツ  
ク者ト云

豫防法條下

○硫黄乳

第三硫化利萬亜母或ハ第五硫化加爾叟母  
ニ塩化水素酸ヲ加ヘテ沈澱セシメ洗滌メ製  
シタル硫黄ナリ

腸管壅塞部

○腸隔脱腸

腸間膜ノ破綻シテ腸ノ脱出絞縊スル者ヲイ



フ

○横膈脱腸

此症ハ先天ニ係ル丁アリ或ハ横膈膜ノ偶然  
分烈シテ其罅隙ニ腸ノ絡入スルヨリ發スル  
トアリ

○腸網脱腸

腸網膜ハ其部ニ準シテ名アリ所謂腹膜ノ延  
展シテナル者ニメ盲腸結腸ヲ除クノ他ハ悉  
皆密包スル膜内ノ脱腸ナリ

○鎖孔脱腸

耻骨ト坐骨間ノ大孔ニ於ル纖維膜即チ閉鎖  
鞅帶ニ動脈神經ノ發出スル一孔存ス此ヨリ  
腸ノ一部脱出スル者ヲイフ

○凝血若クハ凝乳等ノタメニ阻塞セラレ

[按]凝乳ハ脂肪球体ノ顆粒物ニ凝結シテ酪素  
状トナル者ヲ謂フナラン

○インテュスソスセツプシヨシ

腸管重疊ノ義ナリ例之ハ小腸ノ一部滑脱シ  
テ大腸部内ニ疊束スルカ如キ是ナリ

○ガリリシ一氏便秘莨菪若ノ實驗



東京醫事新誌中ニモ詳ニ葭菀効用ヲ揭示セリ参考スヘシ

○ワロリユース氏障膜

一ニ之ヲ廻結辨ト称ス廻腸口縁ニ横居シテ結腸内ニ挺出ス而メ大腸ヨリ小腸エノ逆行ヲ防止ス

霍乱部

〔原因〕○腸ノ粘液膜弛緩シ且肝臓ノ刺衝ヲ受ルニ因ル者ナランカ

腸粘膜弛緩スレハ加答児即チ漿液ノ滲出ヲ

起シヤスク肝臓ニ刺衝ヲ受クレハ酷烈ナル胆汁ヲ分泌スルヲ許多ニメ随テ吐瀉ヲ促スニ至ルヘシ

下利部

○石灰汞 一名銀灰散

水銀三多石灰五多ヲ研和シ星ナキニ至ル

○刺達尼

収斂強壯健胃

○侃百設木

収斂強壯下痢及ヒ痢疾ニ用ユ其効分ハ鞣酸



ニ在リ

○吉納

収斂鞣酸ニ富メリ頑固下痢子宮泄血咯血白帶下等ニ効アリ

○「ブラックベルリ」其根「リュビユス」ノ収斂藥タル「ブラックベルリ」ハ黑覆盆子ニメリ「リュビユス」ナル語ハ覆盆子族ノ總名ナリ恐ラクハ根ノ義ニアラス而レ凡合衆國局方ニ於テハ只リ「ユビユス」ト呼フ片ハ黑覆盆子根ノ「ナリ」通称ト着做シテ可ナラン

小兒霍亂部

○「リュビユス」セラニ「ム」

收斂強壯健胃

痢疾部

○泰藜土性痢疾

痢疾ノ泰藜土性ナルハ其症候宛モ泰藜土熱ニ於ルカ如ク虚性ノ高熱暫留シテ速ニ衰弱ヲ來ス者ナリ解部的上ノ變化ハ同一ニ出テス是ヲ以テ泰藜土ト區別セサルヲ得サルナリ蓋シ其毒タル盲腸ノ近側ヨリ生シテ上部



ニ連累スル者トイヘリ

○失荷児陪苦性痢疾

戰地兵卒ニ發スルノ説ニノ卑湿雨露ニ冒觸  
シ不良ノ食品汚池ノ水泉等ヨリ血液ノ變敗  
ヲ起シ來ル所ノ惡性痢ナリ

[按]此症ニ於テハ脈管毛細壁ニ至ルマテ脆薄  
トナリ自ツカラ多ク血液ヲ溢出スル者ナリ  
腸ノ粘膜ハ殊ニ加答兒狀トナツテ溢血シ潰  
腺瘡ヲ發シ体表皮膚ニ青斑或ハ紫綠斑ヲ生  
スルニ至ル者ナリ

○ベン子葉茶 [療法條下]

「セサムオリインタル」ノ葉ニノ羅甸ニ「セサマ  
イフオリアト云之ヲ浸出シ粘漿トナシ用ユ包  
撰ノ効アリ

○ガルシニア、マンゴスタナ

「ジャワ」及ビ「モラツカ島」ニ産ス其實大サ橙ノ如  
ク美味ナリ此皮ヲ乾枯シ痢疾ニ用ユ又之ヲ  
濃煎シテ咽喉潰爛ニ稱用ス性収斂清涼強壯

○鉛糖硝塩酸化學的上ノ忌避

鉛糖即チ醋酸鉛ト硝塩酸ノ調伍ヲ忌ム所以



ハ硝酸ト鉛ト親和シテ醋酸ヲ游離セシメ硝酸鉛トナツテ侵蝕性ノ有害物ニ變スルニ在リトス

〔按〕胆液性痢疾ニ於テハ第一肝臟機能ヲ促進スルカ為メニ硝酸塩酸ヲ主要藥トナスナラン

盲痔部

○合併症及繼發症〕尿道膀胱攝護腺若クハ睪丸婦人ニ於テハ子宮及腔ノ刺衝症ヲ起ス此等ノ諸部ハ悉ク皆直腸ノ近側ニ在テ尿道ハ膀胱ノ排泄管ニシテ膀胱頸ヨリ龜頭頂ニ

開孔ス之ヲ攝護部膜様部海綿体部ノ三部ニ分ツ膀胱ハ耻骨ノ后方ニ占位シ男子ハ直腸ノ前方婦人ハ腔ト子宮ノ前方ニ占位ス攝護腺ハ耻骨縫隙ノ下后方ニ在テ膀胱頸及ヒ攝護部ヲ圍擁シ其下面ハ直腸上ニ安乗ス睪丸ハ各一條ノ輸精管ヲ以テ骨盆内ニ上降シ膀胱底ニ達シ精囊ノ排泄管ト連結シテ射精管トナリ攝護腺中ヲ穿ツテ尿道ノ攝護部ニ開口ス故ニ直腸ト關係ナキヲ得サルナリ又子宮ハ前面ハ膀胱后面ハ直腸ニ接シ以テ孟骨



内ニ位ス腔ハ子宮口ニ関通シ前壁ハ膀胱底ニ附着シ后壁ハ緩縦結締織ニ由テ直腸ニ附着シ側方ハ肛門ノ舉筋ト関係セリ

○鯨腦軟膏

鯨腦 白蠟 各二分 甘扁桃油 一分

○麻屈涅失亜ハ盲痔ヲ刺衝スルヲ以テ用ユ可テス

[按]麻屈涅失亜ヲ盲痔ノ刺衝藥トメ用ヒサルハ予ノ實驗ニ於テ未タ其害ヲ見ル丁ナシ其効用ノ論理ニ至テハ至當ナリト雖片蘆薈ノ

刺衝ニ比スレハ大ニ緩ナルニ似タリ又制酸藥トメ持重スル片ハ腸ノ下部ニ磷酸諸母亜麻屈涅失亜ヲ生シ硬塞ノ害ヲ醸ストイフ説アルモ未タ信據シカタシ

肛門裂傷部

○コルロヂタン

綿エンセウヲ過的兎ニ溶シ製ス蓋シ純精ノ過的兎ニハ溶シカタキカ故ニ少許ノ亜尔箇兎ヲ加フルヲ良トス人工表皮造構ノ偉効アリ



○コ、ア酪

コ、ア仁ヨリ製スル植物脂油ニメ成分ハ糖  
澱粉護膜蛋白<sup>1</sup>ステア<sup>1</sup>リ子<sup>1</sup>エ<sup>1</sup>ライ子<sup>1</sup>等ニメ并  
ニテオ<sup>1</sup>ブ<sup>1</sup>ロ<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>ン<sup>1</sup>ナル一異成分アツテ白色微  
紅結晶状ノ粉末ニメ苦味ヲ有ス

肝脾腎膀胱諸病

肝臟急性充血症部

○藍丸

主要ハ肝臟ノ分泌機ヲ促進スルニ在リ

肝臟炎部

○肝ノ實質或ハグリ<sup>1</sup>ソン<sup>1</sup>氏肝胞

肝ノ實質ハ微細ノセル<sup>1</sup>即チ肝細胞聚簇シテ  
許多ノ小葉ヲ造為シ結締織ヲ以テ更ニ此小  
葉ヲ連結シ以テ全質ヲ構成スル者ナリ

グリ<sup>1</sup>ソン<sup>1</sup>氏肝胞ハ全肝ヲ被包シ并ニ血管ヲ  
被覆シテ深ク肝ノ實質中ニ入り肝小葉ノ連  
合ヲ營ム所ノ結締織膜ナリ而メ沔乙膜ハグ  
リ<sup>1</sup>ソン<sup>1</sup>氏肝胞ノ上ヲ被包スル一層膜ナリ

○肝ノヒダ<sup>1</sup>チ<sup>1</sup>ト<sup>1</sup>腫

本病條下ト参考スヘシ



黄疸部

○尿ニ硝酸ヲ加フレハ綠色ニ變ス  
胆汁色素ノ反應ニ出ル者トス

○胆汁ノ染色色素及格列私的亞林色素ハ前條ニ於テ記載セシカ如ク「ビリブル  
ヂン<sup>綠色</sup>」<sup>素</sup>「ビリブルヴェ<sup>子</sup>」<sup>黃褐</sup>等ノ名アリ格列  
私的里涅ハ丹氏ノ說ニ結晶性ノ脂質物ニメ  
胆中特生ノ者ニアラスト云又紐育ノ富林葛  
氏ハ本來袖經組織ノ用ヲ畢リタル老廢物一  
メ腦及神經ノ實質ヨリ血中ニ吸収シ肝ニ行

テ排出セララル、者トイヘリ  
○碩學「ビルシヨウ」氏自カラ血中ニ始マル所ノ  
一種黃疸症ノ發明

附録

輒述黃疸症ヲ區別シテ肝臟ニ起原スル者ト  
血中ニ發生スル者トノ二種トス甲「ヘルト  
セナス」乙「マトセナス」ト名ク乙ハ即チ「  
ルシヨウ」氏ノ發明ニメ胆汁色素ハ肝ノ機能  
ヲカラズ直ニ血液中ノ色素ヨリ化成セル者  
トナス是ヲ以テ血球ヲ崩潰スル所ノ物品ヲ



血中ニ注入スレハ人工黄疽ヲ誘發シ得ヘク  
又「コロールホルム」或ハ「エートル」等ノ中毒ニ  
黄疽症ヲ發スルハ血球ヲメ崩潰セシムルニ  
由ルトイヘリ

○胆酸

甘胆酸及ヒ牛胆酸ヲ謂フ此等ノ酸ハ肝ニ於  
テ始テ化成セラル、者ナリ以テ識別ニ供フ

○チロシン

「チロシン」ハ含窒物ノ分解産物トナツテ存シ  
又平常脾臓ノ中ニ在リ其形状無味無臭雪白

ニシテ纖維細ナル針状ノ結晶ナリ註ニ乾酪質  
トイフ非ナルニ似タリ

○泌尿管ノ「カスト」

〔按〕泌尿管ノ内壁ニ纖維素ヲ滲出シ管状ヲナ  
ス者ナルヘシ

○甘汞黄胆効用ノ説 [療法條下]

甘汞ノ胃ニ入ルヤ格魯兒ニ遭ヒ蛋白亜格魯  
兒化水銀トナツテ吸收セラレ下利ヲ發スル  
ハ脾ノ分泌機ヲ増進スルニ由リ緑便ヲ利ス  
ルハ硫化水銀ヲ化成スルニ由ル又胆ノ分泌



ヲ進ムルハヨク胆酸曹達塩ト抱合メ稀釈融  
解ノカヲ逞フスルニ由ル

急性變黃消耗症部 俗ニ黑疸ト  
稱スル者

○磷ノ中毒症ニ似タリ

磷ハ過量ナレハ蛋白質ヲ凝泣シ麻痺及ヒ昏  
睡症ヲ誘起シ或ハ諸器ノ脂肪變性ヲ將來ス

肝臟硬結腫部

○〔原因〕亜尔箇兒ノ害ニ由ル者ナランカ

アルコールハ身体組織ノ水分ヲ掠奪シ蛋白  
分ヲ凝固セシムルニ在リ而メ血中ニ吸収セ

ラル、ノ右ハ血色素ト酸素トノ結合ヲ觀察  
ナラシメ代謝機ヲ怠慢ナラシムル者トス但  
シ肝臟硬結腫ヲ來ス所以ハ「アルコール」ノ連  
綿タル刺衝ニ由テ肝ノ結締織ヲ増生スルニ  
起因スル者カ

肝臟蠟様變質部

○其變質物ハ澱粉様ノ反應ヲ呈ハス  
之ニ沃顛丁幾ヲ加フレハ含窒素物ノ如ク茶  
褐色ヲ呈シ或ハ紅色或ハ稀レニハ淡蒼色ニ  
變シ更ニ之ニ加フルニ硫酸ヲ以テスレハ澱



料ト同ク蒼赤或ハ純蒼色トナル

○脾ノ肥大及蛋白尿ヲ併發スレハ愈確實トス  
澱粉變質ヲ起スハ全身ニ因スルカ故ニ單ニ  
肝臟一器ニ止マラス必ス他ノ臟器モ之ニ罹  
ル者ニメ即チ脾ノ肥大スルハ澱粉變質ニ係  
リ蛋白尿モ亦腎ノ澱粉變質ニ原ツク者トス

肝臟癌腫部

○髓様瘤

〔註〕其實腦髓ニ似タルヲ以テ名クトアリ所謂  
新製乾酪狀質タルヲ謂フナルヘシ

胆腑膨大部

○胆管或ハ總管

胆管ハ二枝ニメ肝ノ橫披裂ヨリ門脈ノ前肝  
動脈ノ右ニ在テ胆囊ヨリ來ル其丈ニ印埜許  
又肝管ト輸胆管ト相會合スル者ヲ總管トイ  
フ

○胆囊水腫

此症ハ胆管壅塞シテ胆汁全ク胆囊ニ入ル  
アタワス只胆囊粘膜ヨリ連綿粘液ノミヲ分  
泌シテ囊内ニ填充スルヨリ生ス故ニ其内容



物ハ全ク粘液ノミ尋常ノ水腫ト異ナリ而メ此水腫ハ其形状梨子ノ如ク彈力アツテ且波動ヲ徴ストイヘリ

脾臓病

○此疾患ハ病學全書ニ之ヲ論スルモ冗長ナラサルヲ得ス此書ノ体裁ニアラサルカ故ニ簡記スト云

〔附録〕醫家往々脾臓作用ヲ論及スル者アルカ故ニ今爰ニ諸説ヲ鈔録メ以テ便覽ニ供セン  
了ヲ要ス蓋シ脾ノ作用ハ論說一定ニ至ラス

一説ニ血球ノ作用ヲ終リシ后細分解ヲ受ケ更ニ化學的原質ヲ循環血液ニ賦與スル処ナリト云又一説ニ新タニ白血球ヲ造成スル処ニシテ之ヲ直ニ靜脈系ト接續セル水脈腺ト看做スヘシト云又一説ニ脾ハ營養腺ニメ蛋白質ヲ造成シ赤白二血球ノ資源スル処トスルヨリ他ナシトイヘリ又或ル説ニハ血液ヲ貯蓄スルノ器械的作用ヲナシ胃ニ消化機ヲ始ムル片ハ减小シ食后五時ヲ経テ胃ノ作用ヲ休ム片ハ増大スルヲ以テ徴スルニ足レリ



ト云或ハ又腹内ノ甲状腺ト看做シテ可ナリ  
ト云説アリ下動物ノ脾ニ於テハ之ヲ截除ス  
ルモ消化機依然トメ永ク生活ヲ保存セリト  
云説モアリ未タ何レカ至當信據スヘキヲ知  
ラス

腎膀胱諸病

腎臟充血症門

○腎静脈下澀

即大静脈ニシテ下大静脈ヲ云

尿毒病部

〔病理〕此因ヲ炭酸諸母尼亞ニ歸スルノ説ハ「フレ  
リ」チ氏ノ臆説ニメ尿素血中ニ分解メ諸母尼  
亞ヲ化成スルニ由ルト云此説大ニ廢棄セリ  
輒近ハ單ニ尿素ニ歸スルノ説ヲ主張セリ然  
レ凡其尿素ノ作用何如ヲ確明スルニ至ラス  
一説ニ尿ノ越幾斯分ナル「クレアチン」ノ血中  
ニ鬱積スルヲ原因トスルモ其性質亦未タ分  
明ナラス蓋レ近説ノ主要トスル所ハ尿素ハ  
全身含窒物ノ老廢シテ血中ニ入り腎臟ヨリ  
排泄セラル、者トス是ヲ以テ腎臟ノ機能缺



亡スレハ血中ニ蓄積メ中毒症ヲ發ストイヘ

○ブリフト病ニ尿毒症ヲ發スルハ腦水腫ニ係ル者ナリ

此疾ノ慢性症ニ於テハ体中何ノ部ヲ論セス浮腫ヲ起シヤスシ故ニ腦ニ於テモ急性若クハ次急性ノ腦ノ「オイデマ」症ヲ起シ腦ノ貧血ヲ來スカタメニ種々ノ神經症ヲ發スル者ナリト云

○尿毒症第一ノ療法トメ專ラ刺絡ヲ讚賞セリ

〔按〕リチャードソン氏ノ實驗上ニ於テ尿毒刺絡ノ称用ハ最身体強實ノ者ニ確効アリト説シモ恐ラクハ其症状ニ注目セサルヘカラス必シモ急發症ニメ肺炎胃膜炎若クハ腹膜炎腎炎等ヲ併發スル者ニ於テノミ施スヘキナリ容易ニ妄施セサルヲ要ス

○背部 即腎部

腎ノ位置ハ腰椎ノ初メ二個若クハ三個ト背推ノ末トニ對向セリ

○エラテリウム若クハ「コロトン油



エラテリウムハ峻下薬ニメ効分ハエラトリ  
ン元質ニ係ル六七月ニ至テ新鮮汁ヲ越幾斯  
ニ製スコロトン油ハ巴豆油ナリ辛辣ノ脂酸  
ヲコロトン酸ト称ス

腎臟炎部

軌迹腎臟炎ノ病名ヲ瘡メ之ヲブリフト病門  
ニ属シ以テ腎ノ急性充血症ト區別セリ

○腎盂

輸尿管ノ上端漏斗状ニ膨脹スル部ヲ腎盂ト  
称ス即チ腎盂ヨリ尿ヲ受ケ輸尿管ニ送ル所

ノ者ナリ

急性ブリフト病部

○腎内上皮ノ細屑

板状内皮ヲ以テ裝裹セル薄脆ナル基礎壁膜  
ノ片屑ヲイフ

慢性ブリフト病部

○火熱ト硝酸ヲ以テ蛋白尿ノ試験

硝酸ハヨク蛋白質分ヲ凝固セシメ又尿素ト  
抱合シテ硝酸尿素塩ノ結晶ヲ生ス

○尿中ノ固形分



尿素尿酸磷酸硫酸剝萬亞叟母加爾基麻偃涅  
叟母諸母尼亞格魯兒曹曹母等是ナリ

○血管變質期泌尿管第二ノ變質期

腎ノ血管先ツ變質シテ后泌尿管ニ及ホス片  
ハ血管ノ變質ニ對シテ第二ノ變質ト云

○腎臟泌尿管ノ疾患ト甲乙泌尿管ノ間ニ起ル  
所ノ疾患

[按]腎臟泌尿管ノ疾患トイヘハ專ラ腎ノ細尿  
管ニ係ル所ノ疾ニシテ甲乙泌尿管ノ間ニ發  
スル疾トイヘハ始メヨリ甲ノ泌尿管ト乙ノ

泌尿管トノ間ニ介マル結組織ニノミ係ル所  
ノ疾ヲ云ナリ

○早ク已ニ腎臟動脈ノ變化ヲ呈スハ一般器質  
變化ノ一部分タルニ似タリ

ブリフト病ニ於テ已ニ腎動脈系局外變質ノ  
候アラハ全身一般血管ノ變質トナルノ一ナ  
リトイフベキナリ

○硫酸鎂諸母尼亞

硫酸鎂ニ諸母尼亞ヲ合スレハ効用略明礬ニ  
ヒトシ



尿石病部

尿石ヲ大別シテ三種トナス曰尿酸結石曰磷酸結石曰尿酸結石是ナリ「ヘル氏ノ説ニ甲ハ尿酸石尿酸塩諸母尼亞曹達麻僂涅失亞加  
ル基ノ混合物ニメ大抵茶褐色或ハ白色トス  
乙ハ磷酸塩就中磷酸加爾基麻僂涅失亞諸母  
尼亞ヲ多シトス其質結麗土ノ如シ丙ハ尿酸  
加爾基石ニメ其色黯褐ナリトイヘリ

○重碳酸曹達 第百二十二方

過釀酸ヲ中和シ消化機ヲ尤進ス爾他尿石ニ

効アリトイフ

○システチン

時ニヨツテ尿石中ニ含容スル所ノ一成分ニ  
シテ無色無味ノ結晶物ナリ

○磷酸石灰性尿石ニ稀硝酸ノ効用

磷酸加爾基ハ能ク稀硝酸ニ溶解ス塩酸ニ於  
テモ亦然リ

尿崩部

○原因此因ニ數般アリト雖モ確明ナラス且未  
タ其病理ヲ説明スルニ足ルヘキ腎質ノ變常



ヲ見ス或ハ尿管運動神経ノ作用ニ歸シ或ハ延髓ニ在リトシ或ハ脊髓ノ蓄血ニ係ルト云諸説紛々ニマ確信シカタシ

○纈草麥奴〔療法中〕

輓近佛ノレンデル氏尿管ニ此二品ヲ用ヒテ偉効ヲ得ルノ治驗アリ蓋シ纈草ハ腦脊椎ニ於ル神経中樞ノ反射機ヲ減却スル者ニシ鎮瘥ノ主要タルヘシ又麥奴ハ膨大セル所ノ腎ノ細動脈ヲ收縮セシムルノ効ヲトルカ

蜜尿病部

○〔本註〕

ベルナルド氏ハ佛ノ生理大學士ニメ千八百四年始メテ肝糖ノ理ヲ發明スハウエー氏ハ龍動府ノ碩學一十八百五十七年ニメ尿管病理ヲ説明セリ

○ヘパチン

肝素ト譯ス肝ニ存在スル物ト云義

○デキステリ子

澱粉ト稀硫酸トノ作用ニ由テ生スル所ノ粘稠ナル物質ニメ或ハ澱粉ニ酵母ヲ加フレハ此物ニ變化ス



○グリコーゼン

「ベルナルド」氏嘗テ肝臓中ニ於テ發明セシ所  
ノ一成分ニメ同氏ノ説ニ由レハ此物變シテ  
肝糖トナルト云無色無味ノ粉末ニメ又菓糖  
氏譯ス

○肝肉

肝肉ヲ禁スルハ肝糖造成ノ原ヲ絶ンカ為ナ  
リ

○ゼルリー

魚膠ヲ煮テ軟凝セシムル者

○醱酵

植物ニ於テハ「カセイ子」植膠及ヒ大麥等ノ粘  
質物ナリ之ヲ勿兒綿葛ト称ス

○レン子ツト

牛ノ胃ヨリ製スル者ニシテ牛乳ヲ凝固スル  
ノ性アリ酪ヲ製スルニ必要ノ品ナリ

○乳酸水

少量ニ服スレハ胃ノ消化機ヲ進メ腸管ヨリ  
吸収セラレ血中ニ入テ塩基ト抱合ス

腎臓水腫部



○輸尿管

各腎ヨリ起ル所ノ圓柱状ノ一管ニシテ通常ノ長サ十五印垓トス骨盤腔ニ沿テ膀胱底ニ開口ス

○尿毒症

允テ多量ノ尿素及ヒ爾他ノ尿質分排泄ノ機ヲ失メ血中ニ鬱積シ危險ノ中毒神經諸症ヲ發スル病ヲ謂フ

腎臟膿瘍部

獨ノ据設氏ノ説ニ此症多クハ細尿管間ノ結

組織ヨリ發生シ黃圓ノ凹窠形ヲナシ更ニ蔓延シテ全腎敗壞スルニ至ル者トイヘリ

○方腰筋ヲ截開シテ腎臟ニ達ス

此筋ハ腸骨嵴中央ノ后部ヨリ起テ上行シ季肋ト腰椎ノ末片及ヒ其他ノ諸片ノ横突起ニ附着ス

腎臟癌腫部

○髓様癌腫

一二軟性癌トモ稱ス癌腫ノ一種類ニシテ腎ノ髓様質部ニ發スルノ義ニアラサルヘシ



腎臟結核部

○獨發症繼發症

獨發ハ腎質中自然ニ結核ヲ發生スル者ニメ  
繼發ハ例之ハ肺ノ結核症ニ於テ腎ニモ亦同  
性ノ結核ヲ起發傳播スルカ如キ者ヲ謂フ

○此物醋酸ニ溶解シ難キヲ以テ知ルヘシ  
醋酸ノ効用ハ蛋白質及ヒ角様質表皮等ヲ溶  
解ストアリ然ルニ腎臟結核ノ碎片ノ尿ニ混  
泄スル者ハ溶解セサルヲ以テ徵知スヘシト  
イフ義ナリ

腎臟ヒダチツト部

此疾ハ一二腎胞虫凡名ク腎ニ數胞ヲ生シ尿  
ニ小胞虫ヲ漏ス者ナリ

遺尿部

○安息酸〔第百二十六方中〕

安息酸ハ香竄辛辣衝動ノ劑ニメ祛痰及ヒ防  
腐ノ効ハ諸書ニ記載スト雖凡未タ遺尿ノ効  
カヲ解説スル丁ナシ蓋シ此症ニ効アル所以  
ハ鞭神興奮ノ効ニ歸スル者ノ如シ



内科摘要抄語解卷一終

明治十二年十一月廿七日版權免許  
同十三年五月發兌

編述

岐阜縣士族

江馬元齡

同縣安八郡大垣竹島町二十番地

出版

同縣平民

岡安慶介

同縣同郡同所岐阜町十六番地

發行  
書林

島村利助

松村九兵衛



館書圖京東

函三三門新

架三部三

號類



内科摘要抄語解  
江馬元齡編述  
一

特38  
163

059075-001-4

特38-163

内科摘要抄語解 卷1, 2

江馬 元齡/述

M13

CBD-0290

